

令和4年度全国学力・学習状況調査における春日井市全体の結果について

春日井市教育委員会

令和4年4月19日（火）に、小学校6年生と中学校3年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査の春日井市の結果の概要についてお知らせします。

なお、この調査の結果は、児童生徒の学力の一部であることをご承知おきください。また、この調査の詳細は、国立教育政策研究所のウェブサイト「全国学力・学習状況調査」により確認できます。

<https://www.nier.go.jp/kaiatsu/zenkokugakuryoku.html>

1 小学校6年生

(1) 教科の状況

状況を見るにあたって、よくできている内容【○】と努力を要する内容【△】の一部及び今後の指導のポイントを紹介します。

【国語・小学校6年生】

国 語	状況	正答率：全国平均よりやや低い 分 布：上位層がやや少ない
	内容	○話し言葉と書き言葉の違いを理解する。 ○必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉える。 △互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる。 △文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける。
	今後の指導のポイント	
	・話し合いでは、異なる立場からの考えを聞き、様々な視点から物事を捉えた上で、自分の考えを広げたりまとめたりすることが大切である。その際、互いの立場や考えを尊重しながらも、自分の考えを伝えたり、必要なことを質問したりする力も求められる。また、話し合いを通して、言葉には相手とのつながりをつくる働きがあることや、話し言葉では誤解されやすい同音異義語を避けることよいことに気付くことができるように指導することも重要である。 ・読み手に自分の考えを明確に伝えるためには、自分で書いた文章を読み返し、文や文章を整えることが必要である。その際、5年生、6年生においては、内容や表現に一貫性があるか、目的に照らして適切な構成や記述になっているか、事実と感想、意見とが区別して書かれているか、引用の仕方、図表やグラフの使い方は適切かといったことなどを観点として、文や文章を整えることが大切である。また、様々な観点で互いの書いた文章を読み合い、感想や意見を伝え合うことによって、他者の文章のよいところだけでなく、自分の文章のよいところを見付けることができるようにすることが大切である。	

【算数・小学校6年生】

算 数	状況	正答率：全国平均と同程度 分 布：上位層がやや少ない
	内容	○被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることができる。 ○図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解している。 △示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる。 △示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している。 △伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述できる。
	今後の指導のポイント	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常生活の問題を解決するために、算数で学習したことを基に、目的に応じて、数量の関係に着目し、数の処理の仕方を考えることが重要である。そのために、目的に応じて、問題場面の数量の関係に着目し、除法が用いられる場面であると解釈して、除法を用いたり、切り捨てや四捨五入などの数の処理において、具体的な場面に対応させながら、乗法を用いたり、公倍数や公約数を用いたりすることができるようにすることも大切である。 ・ 割合を用いて問題を解決するためには、問題場面の数量の関係に着目し、基準量、比較量、割合の関係や伴って変わる二つの数量の関係について考察して、数学的に表現・処理することが重要である。そのために、例えば、日常の具体的な場面に対応させながら割合について理解したり、図や式などを用いて基準量と比較量の間を表現したりすることができるようにすることが大切である。また、伴って変わる二つの数量の間に比例の関係があることを見だし、その比例の関係を用いて、未知の数量を求めることができるようにすることも大切である。 		

【理科・小学校6年生】

理 科	状況	正答率：全国平均と同程度 分 布：全国とほぼ同様
	内容	○問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる。 ○観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる。 △自然の事物・現象から得た情報を、他者の気づきの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる。 △日光は直進することを理解している。 △実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる。
	今後の指導のポイント	
<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象から得た情報を、他者の気づきの視点で分析して、解釈するには、比較の考え方を働かせながら、差異点や共通点を捉えていくことが大切である。また実証性、再現性、客観性などといった科学の基本的な条件を意識することも大切である。児童が話し合う中で、比較の考え方を働かせながら、自分や他者の気づきを基に、差異点や共通点を捉え、新たな問題を見いだしていくような場面を設定することや、観察・実験などの方法を具体的に見通そうとすることに価値付けることの重要性について意識して指導することが重要である。 ・生きて働く知識を習得するためには、主体的な問題解決を通して、知識を概念的に理解することが大切である。そのためには、習得した知識を、次の学習や生活などに生かすことができるようにすることの重要性について意識して指導する。 ・実験の結果を事実として分析して、解釈し、問題の視点で考察するには、結論を導き出す際に根拠となる事実と解釈を表現することが大切である。そのためには、問題に対する予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、観察・実験などを行った結果を事実として分析して、解釈したことを、結論の根拠として表現できるようにすることが重要である。 		

(2) 学習・生活習慣等の状況

状況調査を見るにあたって、学習・生活習慣等を「生活習慣」「学校・家庭での生活の様子」「自尊意識」「規範意識」「学習の様子」の観点から分析する。

全体の傾向（様子）のよい点【○】と改善が必要な点【△】及び学習・生活習慣等と教科の調査結果との関連について紹介します。

全体の傾向（様子）【小学校6年生】

【生活習慣】

- 朝食を毎日食べている。
- 毎日同じくらいの時刻に起きている。

【学校・家庭での生活の様子】

- 先生は自分のよいところを認めてくれていると思う。
- 学校に行くのは楽しいと思う。
- 友達と協力するのは楽しいと思う。
- △新聞をあまり読まない。
- △地域の行事にあまり参加していない。
- △地域や社会をよくするために何をすべきかあまり考えない。
- △地域の大人に放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり一緒に遊んでもらったりはしない。

【自尊意識】

- 自分でやると決めたことは、やり遂げる。
- 人の役に立つ人間になりたいと思う。

【規範意識】

- いじめは、どんな理由があってもいけない。
- 人が困っているときは、進んで助けている。

【学習の様子】

- 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う。
- 国語、算数、理科の勉強は大切だと思う。
- 国語や理科の授業の内容はよく分かる。
- 国語、算数、理科で学習したことは、将来、社会に出たら役立つと思う。
- 算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている。
- 理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えている。
- △国語や算数の勉強は好きではない。

学習・生活習慣等と教科の調査結果との関連

- ・ 普段、1日当たり、テレビゲームをする時間が短い児童の方が教科の正答率が高くなっている。
- ・ 普段、1日当たり、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴など（スマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）をする時間が短い児童の方が教科の正答率が高くなっている。
- ・ 読書が好きな児童ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・ 「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てを工夫して発表していた」と回答している児童ほど教科の正答率が高くなっている。
- ・ 「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答している児童ほど教科の正答率が高くなっている。
- ・ 「学習内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と回答している児童ほど教科の正答率が高くなっている。
- ・ 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と回答している児童ほど教科の正答率が高くなっている。
- ・ 「国語の授業では、目的に応じて文章を読み、感想や考えを持ったり、内容を解釈して、自分の考えを広げたりしている」と回答している児童ほど教科の正答率が高くなっている。
- ・ 「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える」と回答している児童ほど教科の正答率が高くなっている。
- ・ 「算数の授業で公式や決まりを習うとき、そのわけを理解するようにしている」と回答している児童ほど教科の正答率が高くなっている。
- ・ 「理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている」と回答している児童ほど教科の正答率が高くなっている。

時代の変化を予測することが難しく、ますます複雑化する社会をたくましく生き抜くためには、よりよい人生や社会の在り方を考え、主体的に課題を見つけ、必要な情報は何かを判断し、多様な人々と協働しながら問題を解決していくための力を育む必要があります。

そのためには、学校と家庭・地域がこれまで以上に連携し子どもたちを育てていくことが不可欠です。

学校では、実際に資料を読む、自分の考えをもつ、人に伝える、全体で発表する、他者の意見を聞く、複数で話し合うという活動を増やしていきます。そして児童が「何が理解できたのか、何ができるようになったのか」ということを実感できるよう指導していきます。

一人一台タブレット端末が配備され、これまで以上に学びの可能性は広がっています。タブレット端末を使い、クラスの仲間と意見を出し合ったり、問題を解決したりする協働学習と、全ての児童の可能性を引き出す、個別最適な学びをすすめていきます。

今回のテストでは、相手の考えを最後まで聞き、相手の考えを受けとめた上で自分の考えをしっかりと伝えている児童ほど、正答率が高い傾向が見られました。ご家庭でも、ニュースや学校の様子について話をしたり、お子さんが興味をもっていることを話題にしたり、一緒に料理や作業をしながら話をしたりするなど会話の機会を増やしてください。

また、子どもの心身の健康や意欲は、正しい生活習慣の下での充足感のある生活が基盤となります。「早寝・早起き・朝ごはん」などの生活習慣づくりは「自己管理能力」を身に付けていく基盤になることも期待されています。例えば「明日早起きするために夜はゲームをやめて早く寝よう」というように自分を律し、管理する能力を身に付けることは、学習面でも取組方をコントロールすることにつながり、将来的には健康管理、時間管理、感情の管理、お金の管理など、よりよく生活する上で必要な力も高めていくと考えられます。

近年、新型コロナウイルス感染症をはじめ、命を脅かす災害が度重なって起こる中、子どもたちは社会の課題に目を向け、人の役に立ちたいと願うことが多くなってきていると感じます。このような社会で起こっている課題を解決していくためには、自分の考えをもち、多様な考えに耳を傾け、コミュニケーションをとりながら自分らしく判断していく力が求められています。学校でも地域でも、また家庭でも自ら学ぼうとする姿勢を育てることを大切にしていける必要があると考えられます。

2 中学校3年生

(1) 教科の状況

状況を見るにあたって、よくできている内容【○】と努力を要する内容【△】の一部及び今後の指導のポイントを紹介します。

【国語・中学校3年生】

国 語	状況	正答率：全国平均と同程度 分 布：全国とほぼ同様
	内容	○助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使う。 ○文脈に即して漢字を正しく書く。 ○事象や行為、心情を表す語句について理解する。 ○漢字の行書の読みやすい書き方について理解する。 ○漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する。 △自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く。 △行書の特徴を理解する。
	今後の指導のポイント	
	<ul style="list-style-type: none"> ・意見文を書く際には、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にすることが大切である。根拠を明確にするためには、まず、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確認することが必要である。その上で、自分の思いや考えを繰り返すだけでなく、根拠を文章の中に記述する必要があることを理解して書くことが重要である。また、分かりやすい文章にするために、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことも大切である。その際、読み手は、書き手の目的と意図を理解した上で、単なる印象ではなく、具体的な記述を取り上げて助言などをすることが重要である。 ・「書写」について、文字を正確に読みやすく書くことができるという、文字の伝達性を重視した指導が求められる。文字を正しく速く書くことができるようにするとともに、小学校と同様に、書写の学習で身に付けた資質・能力を、各教科等の学習や生活の様々な場面で積極的に生かす態度を育成する必要がある。 	

【数学・中学校3年生】

数 学	状況	正答率：全国平均よりやや高い 分 布：上位層がやや多い
	内容	○多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している。 ○簡単な連立二元一次方程式を解くことができる。 △一次関数の変化の割合の意味を理解している。 △結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる。 △事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。 △筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる。
	今後の指導のポイント	
<ul style="list-style-type: none"> ・関数を用いて事象を捉え考察する場面では、具体的な事象の中から伴って変わる二つの数量を取り出して、その変化や対応の様子に着目して関数関係を見だし、その関数の特徴を調べるために、変化の割合を求めることが大切である。 ・数に関する事象を考察する場面では、成り立ちそうな事柄を予想し、予想を確かめ、事柄が成り立つ理由について筋道を立てて考え説明すること、さらに、問題の条件を変えるなどして、総合的・発展的に考察することが大切である。 ・日常生活や社会の事象を考察する場面では、事象を理想化したり単純化したりして、その特徴を的確に捉え、事象を数学的に解釈することが求められる場合がある。その際、問題解決の方法を考え、それを数学的に説明することが大切である。 ・図形の性質を考察する場面では、成り立つと予想した事柄について、論理的に考察し、それを数学的に表現することが大切である。 		

【理科・中学校3年生】

理 科	状況	正答率：全国平均と同程度 分 布：全国とほぼ同様
	内容	<p>○モデルを使った実験において変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できる。</p> <p>○化学変化に関する知識及び技術を活用して、水素の燃焼を分子モデルで表した図を基に化学反応式で表すことができる。</p> <p>△飛行機雲の残り方を科学的に探究する学習場面において、地上の観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善できる。</p> <p>△化学変化に関する知識及び技能と「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連付け、水素を燃料として使うしくみの例の、全体を働かせるおおもとして必要なものを分析して解釈できる。</p> <p>△力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表しその力を説明できる。</p> <p>△液体が気体に変化することによって温度が下がる身近な事象を問うことで、状態変化に関する知識及び技能を活用できる。</p>
今後の指導のポイント		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 気象とその変化の学習では、継続的に気象観測を行い、時間的・空間的な見方を働かせながら気象要素と天気の変化を関連付けて捉えることが大切である。授業では、実感を伴った理解を図るために、観測データや空の様子を撮影した画像をネットワーク上に蓄積、共有して、考察することが考えられる。 ・ 身に付けた知識及び技能を分野や領域を横断して関連付け、身近な事象を多面的、総合的に捉えることが大切である。授業では、身近な事象として水素を燃料として使うしくみの例を取り上げた学習場面を設定するなど、化学変化に関する知識及び技能と、「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能とを関連付けて、科学的に探究することも考えられる。 ・ 科学的に探究する活動を通して見いだした規則性や関係性を、日常生活や社会と関連付けることで、理科を学ぶことの意義や有用性の実感を高めることが大切である。授業では、見いだした規則性や関係性を基に、身近な道具や技術などから新たな問題を見だし、課題を設定して科学的に探究することが考えられる。 ・ 身に付けた知識及び技能を活用して、日常生活で見られる事象を主体的に探究することが大切である。その際、ポスターなどにまとめ、発表や対話を通して考察が妥当かどうかを検討して改善することが大切である。授業では、状態変化に関する知識及び技能と日常生活や社会の中の事象を関連付けて探究することで、理科を学ぶことの意義や有用性の実感を高め、次の探究につなぐことも大切である。 		

(2) 学習・生活習慣等の状況

状況調査を見るにあたって、学習・生活習慣等を「生活習慣」「学校・家庭での生活の様子」「自尊意識」「規範意識」「学習の様子」の観点から分析する。

全体の傾向（様子）のよい点【○】と改善が必要な点【△】及び学習・生活習慣等と教科の調査結果との関連について紹介します。

全体の傾向（様子）【中学校3年生】

【生活習慣】

- 朝食を毎日食べている。
- 同じくらいの時刻に起きている。

【学校・家庭での生活の様子】

- 学校に行くのは楽しいと思う。
- 友達と協力するのは楽しいと思う。
- 先生は自分のよいところを認めてくれていると思う。
- △新聞はあまり読まない。 △地域の行事に参加していない。
- △地域や社会をよくするために何をすべきかあまり考えない。
- △地域の大人に放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり一緒に遊んでもらったりはしない。
- △自然の中で遊ぶことや自然観察をすることはあまりない。

【自尊意識】

- 自分にはよいところがあると思う。
- 自分でやると決めたことは、最後までやり遂げる。
- 人の役に立つ人間になりたいと思う。

【規範意識】

- いじめは、どんな理由があってもいけない。
- 人が困っているときは、進んで助けている。

【学習の様子】

- 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う。
- 国語や数学の勉強は大切だと思う。
- 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。
- 道徳の授業では自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組めた。
- △国語、数学、理科の勉強はあまり好きではない。
- △数学、理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できるかあまり考えない。
- △理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つとはあまり思わない。
- △理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画をたてていない。

学習・生活習慣等と教科の調査結果との関連

- ・ 普段、1日当たり、テレビゲームをする時間が短い生徒の方が教科の正答率が高くなっている。
- ・ 学校が休みの日に、1日当たり、勉強をする時間が長い生徒ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・ 「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てを工夫して発表していた」と回答している生徒ほど教科の正答率が高くなっている。
- ・ 「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答している生徒ほど教科の正答率が高くなっている。
- ・ 「学習内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と回答している生徒ほど教科の正答率が高くなっている。
- ・ 「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答している生徒ほど教科の正答率が高くなっている。
- ・ 「理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えている」と回答している生徒ほど教科の正答率が高くなっている。

急激に変化する時代の中で、一人一人の生徒が自分のよさや可能性を認識して、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められています。そのためには学力の3要素である「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」をバランスよく身に付けさせること、すなわち、確かな学力を定着させることが重要です。

学校では、習得した知識・技能を活用して物事の中から問題を見だし解決につなげていく活動、自分の考えを伝え合う活動を行う中で思考力・判断力・表現力を育てていきます。また、生徒の学習改善につながる評価を行い、新たな意欲の向上につなげていきます。一人一台タブレット端末が配備され、これまで以上に学びの可能性は広がっています。タブレット端末を使い、クラスの仲間と意見を出し合ったり、問題を解決したりする協働学習と、全ての生徒の可能性を引き出す、個別最適な学びをすすめていきます。

生徒が「自分は先生や友達に認められている」「自分にはよいところがある」などの自己肯定感をもっていれば、安心して学びに集中することができ、その結果、学ぶ面白さや楽しさ、有能感などを感じて、学力の向上につながりやすいとされています。今後も教科指導にとどまらず、生徒の自己肯定感が高まる機会を設けるとともに、一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する取組を積極的に行っていきます。

学力の向上をすすめていくためには、家庭学習の充実も欠かせません。子どもたち自身が家庭学習の重要性を感じ、自ら学習計画をたて、学習内容を選択し、主体的に家庭学習に取り組むことや、自分で決めた時間や場所で家庭学習に取り組むことなど、習慣化することが大切です。

また、子どもたちが自分の考えを表現する場や対話をする場を増やす必要があります。家庭でも、学習したことや、社会情勢等を話題にするなど、子どもの考えを表現させる、話し合うなどの機会をもつことを意識してください。

近年、新型コロナウイルス感染症をはじめ、命を脅かす災害が度重なって起こる中、子どもたちは社会の課題に目を向け、人の役に立ちたいと願うことが多くなってきていると感じます。このような社会で起こっている課題を解決していくためには、自分の考えをもち、多様な考えに耳を傾け、コミュニケーションをとりながら自分らしく判断していく力が求められています。これまで以上に学校、地域、家庭が協力して、子どもたちの自ら学ぼうとする姿勢を育てることを大切にしていける必要があると考えられます。